第８回エコパークゾーン環境保全創造委員会　議事録

日時：平成 22 年 3 月 26 日(金)　13:00～15:00
会場：福岡国際ホール 九重の間
出席者：小島会長、青木委員、内田委員、岡本委員、包清委員、田中委員、田村委員、逸見委員、迎委員、吉松委員
オブザーバ：国土交通省九州地方整備局港湾空港部海洋環境・技術課長（欠席）
環境局温暖対策部長

（◎：会長，○：委員，□：事務局）

（開会）

◎：お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

まず議事に入る前に、本委員会は平成 18 年 11 月に第 1 回を開催して、今回で 8 回目になります。今回が最後となりますので、本日はこの委員会で 3 年 4 ヶ月かけて議論してきた内容をとりまとめた「エコパークゾーン環境保全創造計画」の最終的な確認を行っていただくとともに、「エコパークゾーンガイドブック」についても最終的なとりまとめをしていただくということになっております。この計画とガイドブックにつきましては、本委員会から市に対して提案を行うこととなっております。このあたりについて事務局のほうからご説明お願いします。

□：それでは、本日とりまとめていただきます計画、そしてエコパークゾーンガイドブック、これらにつきましては、4 月になりましてから、委員会からの提案として、小島会長から直接市長に手渡していただきたいと考えております。委員の皆様のご尽力の賜物でございますので、皆様の思いを直接市長に届けていただきたいと思っております。本日もよろしくお願いいたします。

◎：今日の議論を受けて、最終的なものをまとめていきたいと思います。それでは議事に移りたいと思います。まずは議題 1 の「エコパークゾーン環境保全創造計画（案)」について、事務局から説明をお願いします。

□：（議題 1 について説明）

◎：どうもありがとうございました。ご意見ご質問よろしいでしょうか。

ご意見ないようでしたら、この形で委員会として承認というふうに取り扱ってよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

では次の議題の「エコパークゾーンガイドブック（案)」について事務局から説明をお願いします。

□：（議題 2 について説明）

◎：どうもありがとうございました。ご意見ご質問はありますでしょうか。

○：きれいなガイドブックができたなと感心している。図鑑に福岡市や福岡県の希少種があれば、見た人が未来に残していかなければならないと思うかもしれないがいかがか。

◎：それは是非やって欲しいので、調べていただき掲載していただきたい。

○：大変立派なものができたなと感心している。希少種は県のレッドデータブックか何かを参考にするのか。

□：県あるいは国のレッドデータブックを参考にするが、両方あるものについては国のカテゴリーでこういう状態、県のカテゴリーではこういう状態、という形で表現したいと考えている。

○：あと 2 つ、小さくて見にくいものがある。20 ページの干潟の役割や 23 ページのアサリの一生など、もう少しクリアにできないか。文字がつぶれていたり字が薄くて非常に見にくい。他にも 2 ページの地図で、「御島崎」が、知らないと読めないくらいになっている。

　もう 1 点は図鑑で、底生生物が二つに分かれている。まずカニやエビ、ゴカイの仲間というのがあり、魚、鳥があって、再び底生生物の二枚貝や巻貝となっている。二枚貝や巻貝を最初か、カニやエビ、ゴカイの仲間の後ろに入れると分かりやすいので、工夫をお願いしたい。

□：文字の件については、本日お配りしているものがカラープリンターで印刷したものですので、印刷業者とも相談して、より鮮明なものにしたいと思っております。

　底生生物の件については、子供でも目にしやすいカニなどを最初に載せております。別途ご相談させていただきたい。

○：植物については、文言を統一したほうが良い。例えば、高さや花の大きさなどはどちらかに統一すると良い。ツルナには年生が書かれていない。その他は一年草、多年草と書いてあるので、加えてほしい。ハマボウとハマゴウについても、両方落葉低木である。全体として同じ情報、文言で書いていただきたい。

□：ご相談させていただきながら表現を統一していきたい。

○：すばらしいガイドブックをありがとうございます。海上遊歩道について記述した 2 箇所について、現在建設中なので、あと 5 年ほどは建設中というような括弧付けで文言を入れた方が、誤解がなくてよろしいのではないか

□：その旨が分かるような表記を工夫させていただきたい。

○：これをもらった子供達に自分のものとして大切に使ってもらいたいということがあるので、どこかに住所、名前などのスペースを最後のページか表紙かに作っていただきたい。

　また、希少種について明記する場合に、ここに載らない種類があるので、選定した理由を入れておく配慮が必要かと思う。

□：図鑑に掲載する生物等を選んだ際には、「目にしやすいもの」を意識した。どこかに入

れられるよう検討したい。

◎：最初のページあたりが空いているので、対応してほしい。あと名前と住所がついてもどこかに設けていただきたい。

○：あともう一つ、最後に物差しを印刷してもらえたら良いのではないか。ガイドブック中に何センチという表現も出てくるので。

◎：特に３センチ以下のアサリは獲ってはならない等書いてあるので、是非お願いしたい。

○：レイアウトは大変見やすくて色使いも良い。各ゾーンの先頭にキャラクターを入れている。これは大変良い。看板等にも展開ができるよう考えていただければよいと思う。このキャラクターは各ゾーンのテーマを示していると思うので、その注釈のようなものがどこかにあって良いのではないか。

□：各ゾーンの目指す方向を示すところで、キャラクターの意図が見える形で検討したい。

◎：随所にふりがながふってあるが、それが統一されていない。おそらく読みにくいものや、地域名が最初に出てくる時にふりがなをふっているようだが、そのような基準なのか。

□：ふりがなについては、固有名詞及び一般的に難読漢字と思われるものについて、初出の段階でふることを原則としている。

◎：もくじのところで、ゾーンのところはふりがなをふってあるが、例えば御島ゾーンでの１の香椎海岸や香椎浜海岸にはふられていない。ここでふると見にくくなるのでふっていないのか。ここが最初に出てくるところなので、ここでふった方が良いかもしれない。

□：もくじを含め、見開きのイメージの中で工夫していきたい。

○：図鑑の中で、日時と場所だけ書いてある欄には何か理由があるのか。

□：日時と場所を記載しているのは、この図鑑を持って現地に行った際に、いつどこで見たという情報を書き込むスペースとして使えるよう設けている。

○：生きもの図鑑の使い方のページにその旨を入れたらどうか。

□：検討したい。

○：一つ提案したい。このガイドブックを近隣の小学校に配布して、社会科や総合学習等で活用していただけるように、行政からお願いしてほしい。

□：多くの方々に、手にとって利用していただくのがガイドブックの作成の趣旨であるので、活用方策については幅広く考えていきたい。

◎：どのくらい印刷するのか。今後の予定を教えてほしい。

□：初版は 2,000 部を予定している。その後状況を見ながら増刷を行う。

○：27 ページにアオサのことが書いてあるが、ここだけ活動団体の問い合わせ先が記載されている。他の活動団体の紹介についても同じように問い合わせ先を入れた方が良いのではないか。

□：34 ページで活動団体のホームページ等のアドレスを紹介している。27 ページについて

は、アオサのかりんとうという特徴的なもの掲示しているので、ここに連絡先を掲載している。

◎：これを見てかりんとうを購入したいと思ったときに、購入先が明記されていないと購入できないので、その配慮で入っているのではないか。

○：ふりがなは最低限にしていただきたい。小さい字であちこちふりがながふってあると読みにくい面もある。

◎：何か基準を持ってふりがなをふっていただきたい。

○：25 ページの「和白干潟で見られるカニの生息場所」の図にはチゴガニがあるが、図鑑には入っていない。

□：図と図鑑との連携を図っていきたい。

◎：ガイドブックに載っている生物等に関しては、図鑑になるべく入れるという方針のほうがよい。

○：福岡市で使う「共働」という字について、その考え方を一言入れておいた方がよいのではないか。誤字等の誤解を与える可能性もある。

□：検討させていただきたい。

◎：他にありませんか。多くの意見を出していただきありがとうございました。では 2 つの案について、全体通して何かありましたらお願いします。

○：エコパークゾーン環境保全創造計画（案）中の名簿にある「東区自治組織等連絡協議会」は、今は名前が変わっている。現在は「福岡市東区自治組織会長会」になっており、その会長となっております。よろしくお願いします。

□：申し訳ありません。訂正させていただきます。

◎：他にございますか。

　では「エコパークゾーンガイドブック」に関しましても、大変多くのご意見いただきましたが、承認いただいたということで、今日いただいたご意見に関しましては、会長一任で、事務局と最終的にまとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

　どうもありがとうございます。では事務局から他に何かありますか。

□：委員会は本日で終了ということになりますが、今回まとめていただきました計画から、それぞれの施策を具体的に事業としていくとき、あるいはその結果を評価するときには、委員の皆様はもちろん、各分野の専門の方などにもご意見を伺いながら進めて行きたいと考えておりますので、今後とも引き続きご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

◎：どうもありがとうございました。それでは、最後にこの委員会の総まとめとして、私のほうから 3 つのことを述べさせていただきたいと思います。

　一つ目は、この委員会で検討してきた内容に関することでございます。振り返ってみますと、平成元年の港湾計画において陸続きの埋立方式から人工島方式に変更され、その背後の和白干潟を含む浅海域、今日の「エコパークゾーン」と呼ばれる海域が保全さ

れることになりました。

このエコパークゾーンは、計画の冒頭でも書かせていただきましたが、平成６年９月の地元住民や市民団体なども入った「エコパークゾーンを考える懇談会」を皮切りに、自然と人の共生を目指して、多くの方々が知恵と力をあわせて、その実現に向けて取り組まれてきました。

このような経緯から、本委員会ではまず港湾局が継続的にモニタリング調査を行ってきた結果から、エコパークゾーンの自然環境に関する実態を把握するとともに、御島ゾーンでのシーブルー事業や香住ヶ丘、塩浜での海岸整備など、やや状態の悪い部分に対してより良い状態にしていくという、まさに環境の保全と創造の事業に対して、本委員会の中でしっかりと評価・検証等を行って参りました。

さらに、委員会では、これから先どのような施策を講じるべきかについての検討を行い、和白干潟ゾーンでは、引き続き環境の保全と創造を進めていくべきであると、今回「エコパークゾーン環境保全創造計画」をとりまとめた次第でございます。また、エコパークゾーン全体を「市民の財産として活かしていく」ことの重要さが明確となり、ソフト施策も充実させていくべきとの結論に至ったところでございます。

このソフト施策の一環として位置づけられるガイドブックにつきましては、より多くの方々にエコパークゾーンの存在を知ってもらい、その良さを共有し、次の世代にいい形で残していきたいとの本委員会の皆さんの気持ちを込めたものでございます。昨年３月の委員会で急遽、事務局との打ち合わせもしないまま発案させていただいたものですが、事務局側の真摯なご努力と共に、委員の皆様のご協力、特に逸見委員と田村委員には干潟生物や鳥類に関しまして詳細に見ていただき、立派なものが出来あがったと思っております。

二つ目は、これはお願いでございます。今回とりまとめた「エコパークゾーン環境保全創造計画」は、今後の施策に活かしていくということであり、エコパークゾーンが「保全」と「創造」に「賢く活用」を加えた、新たなステージへと飛躍するための方向性を示した、羅針盤になるものと考えております。この計画と先ほど申しましたガイドブック、この２つをしっかりと活用していただいて、干潟はもちろん、今まで整備してきた海岸などを含めて、多くの市民の方に上手に、賢く使ってもらう、まさに「ワイズユース」ということになるかと思いますが、これを着実に進めることでエコパークゾーンの魅力が一層増していくものと期待しております。そのためには、事務局のより一層の努力をお願いいたしたいと思います。また、委員の皆さまも多くの機会を捉えて、本計画とガイドブックを大いに役立てていただくことをお願い申し上げます。

最後に三つ目となりますが、私としては最も言いたいことでございます。本委員会は、平成18年11月から今日まで計８回、3年４ヶ月にわたって検討していただいた成果が、今回「エコパークゾーン環境保全創造計画」と「ガイドブック」という形となり、会長の大役をおおせつかった私としましても、大変うれしく思っています。これはひとえに、

委員の皆さまと事務局の皆様のご協力はもとより、建設的なご意見を頂いたお陰でございます。大変ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

長くなりましたが、以上で委員会の総括とさせていただきます。

以上をもちまして、本委員会の全ての議事を終了いたしました。進行を事務局にお返しいたします。